

# 南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



【区の将来像】 大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた 郷土愛にあふれる、いきいきと暮らせるまち

【目指す区のすがた】 I. ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち

目指す区のすがた実現に向けた取り組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p><b>防災</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災力向上のため、自主防災組織による防災訓練の推進、資格取得経費の補助などによる防災士の育成、各避難所での運営検討会などに取り組みました。</li> <li>小・中学生を対象に防災教室、高校生を対象に防災ボランティア講座を開催するなど、災害時の防災の担い手として活躍が期待される若者への防災教育に取り組みました。</li> <li>信濃川や中ノ口川の河道掘削や中ノ口川の堤防かさ上げ工事について、地元地域や県との調整を行うとともに、中ノ口川の治水安全度向上のため、国による管理直轄化を要望しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主防災組織 23 団体が、南区全域で防災活動を展開。担い手の確保、意識レベル、取り組みの質に格差が認められるため、全体の底上げが必要です。</li> <li>幅広い世代から防災活動への理解、参画を得るため、引き続き防災教育や広報誌等を活用した区民への呼びかけが必要です。</li> <li>住民参加型の新たな避難所運営体制を早期に実現するため、令和3年度に区民との協働により避難所運営体制の検討を開始しました。</li> <li>信濃川では、国により流下能力の確保に向け河道掘削が行われています。小須戸橋周辺の右岸（秋葉区）側では一部堤防の高さが不足しています。</li> <li>中ノ口川では、県により150年確率の降雨に対応するため、河道拡幅、河道掘削、築堤、護岸の工事が行われていますが、治水安全度向上のため、国による管理直轄化が望まれます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少、高齢者世帯の増加、高齢者の就労などにより、地域防災の取り組み維持が困難となることが想定されます。</li> <li>現在施工中の大河津分水路改修工事が完了し、信濃川本川の増水防止、支川の排水改善などにより、南区の洪水リスクが大幅に低減します。（予定工期：～2032年度）</li> <li>信濃川では、洪水を安全に流下させることができない場合は、河道掘削が行われていることが想定されます。</li> <li>中ノ口川では、大野大橋の上流、約22kmの工事が完了することとなっていますが、堤防の断面不足解消には、家屋の移転が必要であり、時間を要することが想定されます。</li> </ul>
<p><b>交通安全・防犯・防火</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故防止を図るため、高齢者及び小中学生を対象とした交通安全教室を開催しました。また、防犯登録団体の防犯ボランティアネットワークへの登録を推進しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新潟市では交通事故発生件数は著しく減少している傾向ですが、事故全体に占める高齢者の事故割合は増加しているため、高齢者の事故防止対策の強化が必要です。</li> <li>警察、消防、交通安全協会、防犯協会と連携し、定期的な啓発活動を実施しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の安全機能が向上し、事故発生件数は減少していると想定されます。</li> <li>人口減少、高齢世帯の増加、高齢者の就労などにより、交通安全指導、子どもの見守り活動、防犯パトロール活動の担い手確保が困難となることが想定されます。</li> </ul>
<p><b>生活環境・自然環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空き家の適正管理や利活用促進のため、自治会等の協力のもと、区内の全自治会の調査と現地確認を実施し、空き家データの構築・更新を行いました。</li> <li>家庭ごみの減量のため、地域における啓発活動を行うとともに、河川環境保全のため、不法投棄防止看板を配布しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家データを年2回更新し、管理不全空き家への対応業務に活用しています。</li> <li>地域コミュニティの希薄化を背景に、地域内での所有者等への働きかけも難しくなっており、地域レベルでの管理能力が相対的に低下しています。</li> <li>平成27年以降、空き家に関する住民からの情報提供について、改善されたものは2割にとどまっています。</li> <li>南区の一人1日当たりのごみ量は521g、全市では505g。コロナ禍で、巣ごもり需要が増え、今後も増えていくことが予想されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>権利関係が複雑であったり、空き家の状態や立地条件が悪く空き家の敷地売買が困難になり、そのまま空き家として放置されるケースも増加する恐れがあります。</li> <li>空き家の増加による地域の住環境の悪化防止のため、地域・行政・関係団体の連携を一層強化し、更なる意識啓発を進める必要があります。</li> <li>2022年6月にプラスチック資源循環促進法が施行される見込みで、可燃ごみの減量化が期待できます。</li> </ul>

# 南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



## 【区の将来像】

大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた 郷土愛にあふれる、いきいきと暮らせるまち

## 【目指す区のすがた】

I. ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち

目指す区のすがた実現に向けた取り組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p><b>健康・福祉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを安心して産み育てられるよう、子育て広場を開催し、子育て中の親子同士の交流、育児相談などを実施しました。また、研修会の開催などにより、子育て中の保護者を支援する子育て支援リーダーの人材育成に取り組みました。</li> <li>障がいのある人も安心して日常生活や社会生活を営むことができるよう、在宅福祉サービスの推進、農業体験を通じた就労支援、バリアフリー化などに取り組みました。</li> <li>病気や事故などで働けなくなったり、離別や死別で収入がなくなるなど、何らかの原因で生活に困っている人に対し、ハローワークと連携した就労支援を行いました。</li> <li>子どもから高齢者まで区民が主体的に健康づくりに取り組むことができるよう、きっかけづくりとなる取り組みやすい事業（はかるう体重！あるこう南区！大作戦）を実施するとともに、健康相談・健康教育の実施や、特定健診・各種検診への受診勧奨を行いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て広場 33 回開催、子育て支援リーダースキルアップ研修 8 回開催 (R2)</li> <li>障がい者施設で加工した商品の販売店舗数 20 (R2)</li> <li>ハローワークと連携し、就労支援相談会を月 4 回開催 (R2)</li> <li>「はかるう体重！あるこう南区！大作戦」達成者 757 人 (R2)</li> <li>特定健診受診率 34.77% (R2)</li> <li>男性も女性も働くことを前提にした社会への転換など、社会構造の変化に即した子育て環境の整備が課題です。</li> <li>誰もがより長く、元気に活躍できるよう、健康無関心層も含めた生活習慣病予防・健康づくりの推進など、健康寿命の延伸が課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化が進み、出生数が減少することが想定されます。</li> <li>高齢者の人口の伸びは落ち着き、一人暮らし高齢者が増加することが想定されます。</li> <li>生産年齢人口減少が加速し、現役世代（担い手）が急減することが想定されます。</li> <li>10～20 年前と比較して、加齢に伴う身体的機能の変化の出現が5～10 年遅延しており、高齢者の「若返り」現象が見られることが予想されます。</li> </ul>
<p><b>生涯学習・生涯スポーツ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーキング大会、フロアカーリング大会、白根ハーフマラソンなどを活用したスポーツの振興のほか、青少年スポーツ大会の開催や支援を行いスポーツ人口の拡大及び競技力の向上に繋がりました。</li> <li>健康で充実した生活を過ごせるように施設の利用環境の維持に取り組みました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南区内体育施設利用者数 135,511 人 (R2)</li> <li>運動習慣のない区民性であることから、スポーツの魅力などのPRが必要です。</li> <li>気軽にできるウォーキングイベントをはじめ、新型コロナウイルス感染症の影響により、区のスポーツイベントの廃止、中止が相次いでいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少に伴うスポーツ人口の減少が想定され、併せてスポーツ施設の減少（公共施設再編計画による）が想定されます。</li> <li>スポーツ施設の老朽化が想定されます。</li> </ul>
<p><b>協働</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題解決のため、補助制度の実施などにより、地域コミュニティ協議会への活動支援を行いました。</li> <li>まちづくりについて意見交換し、地域と行政が相互の情報を共有するコミュニティ懇談会を実施しました。</li> <li>ライフステージに応じて多様な生き方が選択実現できるよう、区だよりによる広報や講演会の開催を通じてワーク・ライフバランスの推進、啓発を行いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内 10 か所のコミュニティ施設は、地域のコミュニティ協議会が指定管理者となり運営しています。</li> <li>地域課題の解決を図る活動は、いずれの団体も前年踏襲が多く、活動内容がマンネリ化しています。</li> <li>まちづくりの方策を探るための懇談会は、地域要望も多く、意見交換というより要望への回答が見受けられます。</li> <li>男性は仕事、女性は家事など性別役割分担意識における男女格差が課題です。</li> <li>南区男女共同参画地域推進員と連携し、講演会や料理教室を開催しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化したコミュニティ施設の集約や複合などにより、地域の活動拠点が減少していくことが想定されます。</li> <li>高齢化により、自治会の活動や規模の縮小を目的とした分離新設（小規模自治会）が想定され、併せて、定期的な役員交代も困難となることが想定されます。</li> <li>性別にとらわれない多様な働き方、生き方の選択できる社会になっていることが期待されます。</li> </ul>

# 南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



## 【区の将来像】

大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた 郷土愛にあふれる、いきいきと暮らせるまち

## 【目指す区のすがた】

Ⅱ. 誰もが快適に移動できる交通の利便性が高いまち

目指す区のすがた実現に向けた取り組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p><b>公共交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都心や近隣地域、区内各地域へのアクセス機能を維持・向上させるため、南区バス、住民バス、乗合タクシーを運行しています。</li> <li>・ 高齢者や学生など利用者のニーズにあったダイヤ改正、ルート変更を行いました。</li> <li>・ 区だよりや地域の茶の間、利用者懇談会を実施し公共交通の情報発信を行うとともに利用啓発に努めました。</li> <li>・ 区バス車両の全てをノンステップバスに変更し利便性を高めました。また協賛企業を募り、継続要件である収支率 30%を維持して運行を行いました。</li> <li>・ 交通事業者との意見交換や利用者懇談会を開催し、利便性向上に取り組みました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者実績 区バス 25,809 人、乗合タクシー1,424 人、月湯住民バス 1,980 人 (R2)</li> <li>・ 軌道系の公共交通機関がなく、主にバス運行が区民の移動手段となっています。</li> <li>・ 区バスの運行頻度やルート改善を行っていますが、利用者の増加には至っていません。</li> <li>・ 区バスの R2 平均収支率は 12.8%と、協賛が無ければ運行継続が難しい状況です。</li> <li>・ 区バスの補完として運行している乗合タクシーは、より一層の周知が必要です。</li> <li>・ 南区役所だよりに公共交通関連記事を計 15 回 (R2) 掲載しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化に伴い、移動手段の確保が必要な高齢者が増加することが予想されます。</li> <li>・ 一方、高校生の減少などの影響で、地域公共交通の輸送人員の減少が続くことで、担い手である民間事業者の経営環境に深刻な影響を与えるおそれがあります。</li> <li>・ 運転手の高齢化と人手不足が予想されます。</li> <li>・ 自動車業界では、ライドシェア（住民同士の相乗り）の実証や自動運転の技術開発が進んでいることが予想されます。</li> </ul>
<p><b>道路・橋りょう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市基盤となる基幹道路の適切な維持管理を行い、車両走行性の改善や歩行者の安全性向上、橋りょうの長寿命化に取り組みました。</li> <li>・ 国県道及び主要市道の道路パトロールを実施し、補修・修繕を行いました。</li> <li>・ 新潟中央環状道路の早期全線供用、国道 8 号白根バイパスの整備や大野大橋以南の 4 車線化を進めるとともに、老朽化が進行している橋梁の架け替えや補修について工事計画の調整を実施しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹線道路網の整備や生活道路、交通安全施設の改良・整備、また、更新を迎える橋りょうの架け替えや補修・修繕に取り組んでいます。</li> <li>・ 道路パトロールによる不具合箇所の早期発見、早期補修・修繕など維持管理を行い、車両の走行性の改善や歩行者の安全性の向上に取り組んでいます。</li> <li>・ 老朽化する橋梁を含め、道路の維持管理が課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹線道路網については、整備が完了し、地域間移動の強化が図られていることが想定されます。</li> <li>・ 生活道路や交通安全施設についても支障となるような箇所は減り、誰もが移動しやすいまちづくりが進んでいることが期待されます。</li> <li>・ 一方、施設の更なる老朽化が進み、維持管理に占める割合が増加していることが想定されます。</li> </ul>

# 南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



## 【区の将来像】

大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた 郷土愛にあふれる、いきいきと暮らせるまち

## 【目指す区のすがた】

Ⅲ. 農商工の連携が、新たな活力を生み出すまち

目指す区のすがた実現に向けた取り組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p><b>農業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ル レクチェやかきのもと、なし、ぶどう、チューリップなど南区産農産物の生産振興や、各種メディアを活用したPRにより、産地の維持・発展に取り組みました。また、県やJAと連携した栽培情報の提供による1等米比率の向上のほか、国・県・市の支援を活用して稲作農家への園芸作物導入、転作作物の産地化を進めました。</li> <li>・農業者の新規参入や法人化を支援しました。また、区内の特定農業法人「株式会社 JR新潟ファーム」と連携し田植え及び収穫体験ツアーを行いました。</li> <li>・ル レクチェや桃などの南区産農産物を活かした新商品の開発・販売に民間事業者と協働で取り組み、農商工連携による6次産業化の推進を図りました。</li> <li>・農地の多面的機能を活用し、洪水被害の軽減につながる田んぼダムの取り組みを進めました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コシヒカリ1等米比率 白根地区87%、味方地区78%、月潟地区92% (R2)</li> <li>・南区観光協会Facebookでの農産物PR 23回、パブリシティ活用によるPR116回 (R2)</li> <li>・田んぼダム実施面積3,098ha (R2)</li> <li>・米の安定供給のため、経営所得安定対策により、主食用米以外の農産物の生産拡大を図り、水田フル活用を促進しています。</li> <li>・離農者の増加に対応するため農地集積、集約に取り組んでいますが、ここ数年は鈍化傾向にあります。</li> <li>・県内有数の果樹産地を維持するため、担い手の確保、育成に取り組んでいますが、耕作者・樹園地面積ともに減少傾向にあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる高齢化による農業者の減少が想定され、農地維持が課題となります。</li> <li>・人口減少による国内の農産物需要の減少が想定されます。</li> <li>・技術革新により、従来技術を使った既存の農業の優位性が失われる恐れがあります。</li> </ul>
<p><b>産業・まちなか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致の推進として、北部工業団地隣接地の開発に向けて関係機関との調整を行い、新たな工業用地確保に取り組みました。</li> <li>・空き店舗や空き家の活用、地域の歴史や文化・工芸にちなんだイベントの開催、地域の宝物を利用した商品やサービスの実施などにより、商店街の活性化に取り組みました。</li> <li>・特定農業法人「株式会社 JR新潟ファーム」と連携し、体験型や食と連携した旅行商品の造成支援を行いました。</li> <li>・アグリパーク宿泊者を対象とした観光農園優待券発行や農業体験ツアーの実施など、アグリパークと観光農園・観光施設の連携を促進するとともに、県内外へPRを行うことで誘客に取り組みました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな工業用地確保に向けた取組等により、工業団地の増設にかかる企業立地や、既存企業の工業施設拡張が進んでいます。引き続き、施設用地の拡張を希望する企業が複数ある状況です。</li> <li>・各商店会構成員の減少、定期露店市場出店者の減少が進行しています。</li> <li>・飲食店やゲストハウスなど、空き店舗を活用した新規出店が平成27年以降18件ありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の購買動態の変化、後継者不足などによる商店街や露店市場の減退・消滅が想定されます。</li> <li>・商店街等の空き店舗・空き家、老朽化したアーケードなどの増加が考えられ、管理者不在の状況や倒壊が懸念されます。</li> </ul>

# 南区自治協議会ワークショップ 現状把握シート



## 【区の将来像】

大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた 郷土愛にあふれる、いきいきと暮らせるまち

## 【目指す区のすがた】

IV. 大凧が舞い、獅子が跳ね、ル レクチェが実るまち

目指す区のすがた実現に向けた取り組み	現状と課題	【参考】将来（2040年ころ）に想定される課題・変化
<p><b>観光</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白根大凧合戦、笹川邸、郷土芸能角兵衛獅子、他地域の文化施設や伝統行事に「食」を組み合わせた観光プラン（モデルツアー）を実施しました。また、農作業体験やオンラインツアーを通じた交流により、南区ファンの獲得を図りました。</li> <li>・首都圏で開催された渋谷フラワーフェスティバルやふるさと渋谷フェスティバル、ネスパス物産展において南区の観光や物産のPRを行いました。</li> <li>・雑誌・WEBなどの媒体を活用した観光資源の広告宣伝を行うほか、南区観光協会ホームページのリニューアルを行うなど、効果的な情報発信に取り組みました。</li> <li>・白根・新飯田・月瀉地区のまち歩きのポイントをまとめた「南区まち歩きガイドブック」を作成するとともに、まち歩きの開催により交流人口の拡大を図りました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインツアーの実施 3回（ぶどう、ル レクチェ、生ハム）(R2)</li> <li>・南区まち歩きガイドブック制作 2000部、まち歩きの開催 14回 (R2)</li> <li>・南区観光協会 SNS（フェイスブック、インスタグラム）及び凧合戦フェイスブックのフォロワー数計 3,052件 (R2)</li> <li>・白根大凧合戦や角兵衛獅子の担い手が減少しており、観光資源として今後も位置付けていくためには、担い手の確保が課題です。</li> <li>・南区の強みである農業を活かした観光を推進する必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の減少により、白根大凧合戦開催や角兵衛獅子披露が、これまでと同様には実施できないことが懸念されます。</li> <li>・農家の担い手減少や高齢化により、農業を観光に結び付けることが困難になることが懸念されます。</li> <li>・観光業は、東アジアなど近隣国の市場拡大により成長の余地があります。</li> </ul>
<p><b>文化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・角兵衛獅子・しろね絞り・白根の獅子舞など、貴重な地域の伝統文化を守り育てるため、保護継承を行う団体の活動を支援するとともに、伝統芸能フェスタの開催により魅力発信に取り組みました。</li> <li>・笹川邸においてガーデニングプロジェクトやイベントの実施、笹川邸を舞台にした動画撮影を行うとともに、白根大凧と歴史の館では展示替えやキャラクター募集を行うなど、地域固有の文化施設の知名度向上に取り組みました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化等保護継承団体での活動者数 251人 (R2)</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度の伝統芸能フェスタは中止しました。</li> <li>・文化施設の入館者数が減少傾向にあります。 (R2 凧館：9,824人、笹川邸：3,239人)</li> <li>・角兵衛獅子の担い手が減少しています。 (R3 現在：小・中学生、高校生 7人、育成中小学生 1人の計 8人)</li> <li>・伝統芸能の後継者・指導者不足が課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少に伴う文化施設入館者数の減少が想定されます。</li> <li>・文化施設の開館日数の減少や開館時間の短縮などが想定されます。</li> <li>・文化施設の点検・維持補修を行う上で、人材の不足やコストの増加が見込まれます。</li> <li>・伝統芸能の後継者・指導者不足が想定されます。</li> </ul>